

令和6年度第1回沖縄県公共事業評価監視委員会 議事概要

- 1 開催日時：令和6年9月9日（月）13時30分～16時05分
- 2 開催場所：県庁11階 第1・2会議室
- 3 出席委員：入部委員長、木村委員、城間委員、玉木委員、野崎委員、
宮城委員、守田委員、屋宜委員（10名中8名出席）
- 4 議題
 - (1) 浦添西原線（嘉手苅～小那覇）道路改築事業（再評価）
 - (2) 東風平豊見城線道路改築事業（ 〃 ）
 - (3) 宜野湾南風原線（喜屋武）道路改築事業（ 〃 ）
 - (4) 安謝川河川改修事業（ 〃 ）
 - (5) 東屋部川砂防事業（ 〃 ）
- 5 議事
 - (1) 浦添西原線（嘉手苅～小那覇）道路改築事業〔道路事業〕
 - ア 審議結果：事業継続は妥当である
 - イ 主な質疑は次のとおり
 - (ア) 費用便益分析で用いる社会的割引率4%について、社会情勢の変化により変更あるのか。
→費用便益分析マニュアルで示された割引率4%を採用している。
 - (2) 東風平豊見城線道路改築事業〔道路事業〕
 - ア 審議結果：事業継続は妥当である
 - イ 主な質疑は次のとおり
 - (ア) 事業費の増額要因のうち、物価高騰はどのようにシミュレーションしているのか。
→前回令和元年度再評価時から近年までの労務単価と資材単価の上昇率を考慮し、令和元年度以降の残事業費を算出している。
 - (イ) 事業期間が当初の9年から30年となっているが、用地取得の困難のみでこれほど長期化するのか。
→事業長期間に至ったのは技術的な要因等も含め様々であるが、用地取得の困難を主たる要因として挙げたものである。
 - (ウ) 当該路線のみならず、県全体として用地取得の課題についての取組はあるか。
→計画策定段階において、円滑な用地取得を目的とした用地アセスメントに取り組んでいる事業もある。

(3) 宜野湾南風原線（喜屋武）道路改築事業〔道路事業〕

ア 審議結果：事業継続は妥当である

イ 主な質疑は次のとおり

- (ア) 予算確保が困難となっているなか、令和13年度までに完了する見通しはあるのか。
→当該路線は、関連事業である南部東道路と連携して整備する必要があると考えており、事業者として必要額の確保に努める。
- (イ) 当該路線のみならず、予算の確保や用地取得の困難等の課題から進捗が図られず期間を延長する事業が多数あり、県全体で実施する事業について考え直す必要あるのでは。
→限られた予算のなか、複数の路線を同時に進めているのが現状であるが、ご意見のとおり、県全体でどのように進めるか場合によってはコスト縮減を図れるか、引き続き検討する必要があると考えている。

(4) 安謝川河川改修事業〔河川事業〕

ア 審議結果：事業継続は妥当である

イ 主な質疑は次のとおり

- (ア) 上流の未整備区間について整備が進むまでの間、地域住民の危険回避策はあるか。
→河川管理者としては、監視カメラや水位計の情報発信のほか、浸水想定区域図を作成し那覇市に提供している。これを基に那覇市が浸水ハザードマップを作成し、地域へ情報提供を行うこととなっている。
- (イ) 那覇市が整備する雨水貯留施設の効果は、安謝川整備にも反映されるのか。
→安謝川河川整備と雨水貯留施設整備は、それぞれ想定する大雨の規模が違い別の計画となっており、雨水貯留施設の整備により治水上有利に働くので、安謝川河川整備の見直しは行っていない。

(5) 東屋部川砂防事業〔砂防事業〕

ア 審議結果：事業継続は妥当である

イ 主な質疑は次のとおり

- (ア) 前回の再評価以降の具体的な進捗は何か。
→事業地の用地取得及び工事用道路のルート変更に伴う同意取得が進捗している。
- (イ) 東屋部川全体計画のうち、2号砂防ダムの取り組み状況はどうなっているか。
→現在整備を進めている1号砂防ダムが、ある程度事業の進捗に目途がたったところで、2号砂防ダムの事業化を図りたいと考えている。

6 会議の公開・非公開の別：公開

令和6年9月9日

土木建築部土木総務課